

勝手次第可被遊候、私義ハ關東ノ御恩ヲ蒙リ候者ニ御座候ヘバ、被仰渡ヲ相守不申候デハ不罷成候、此上ハ御幸ノ道ヲ遮リ可申候、押テ御通り被遊候ハ、恐入候ヘドモ鳳輦ニ向ヒ奉リ一矢仕ルベク候、左候ハ、忽チ天命ニ盡キ眼モツブレ可申候、其段ハ關東ヘノ奉公ト奉存候、私義モ與力同心差添ラレ候ヘバ、容易ニハ御通り被遊難ク可有之哉ノ旨申上ラレ候ヘバ、其後仙洞様御幸ハ相止ミ申候、

〔宣順卿記〕慶安四年八月七日、今日仙洞、御落飾已後初、新院正、明女院也、大猷院殿他界已後初、御幸禁裏、

〔宣順卿記〕承應三年三月五日、女五宮御亭、本院水尾、新院正、明女院子、御幸、

〔享保六年林丘寺御幸記〕享保六年辛丑には、普明院宮、光元、御年八十八に及ばせたまふ、御

幸、靈あるべき由仰出され、漸九月廿七日卯下刻、御出門、兼て玉虫左兵衛承りて、御幸の道すがら藪をひらき橋をあらたむ、御幸の御先拂、所司代家來歩目付一人、同組同心小頭一人、此間四五

所司代與力同心四人宛二行に、織立付、次に所司代家來目付三人、織立付、次に御附の同心左右に

九人宛、次に與力三人、星野大學、北大路、其次岡本主膳、桂雅樂、其次二人宛、川勝太兵衛、其次清水掃

中大路、其次鳥山掃部、要人、要人、上恐、脱字、其次岡本主膳、其次藤島主膳、其次茂木宮内、何茂小神

右衛門、其次松宮、宮恐、室誤、夫、夫、恐、宮誤、内、其次地榎之丞、其次富島左近、其次茂木主馬、何茂小神

上下、其次下北面二行、岡本右衛門尉、藤木下總守、其次松波近江守、齋藤讚岐守、其次岡本丹波守、速

水越後守、染小袖麻上、其次非藏人室松、室松、恐、伊賀、安田下野、其次東辻大和、北小路山城、衣斷、其

次殿上人三人並ひ、錦織彈正大弼、石山少將、倉橋中務大輔、此次二行に清岡侍從、四條中將、狩衣、上、次

に御輿、御輿の右滋野井中將、左風早中將、狩衣、御輿者十人、其次御取次二行に、三宅右近將監、小

山主殿助、次に御茶辨當、次に御膳番井上修理、下、部、召、具、二次に、表方役人、下、部、召、具、次に、御替輿仕丁頭、下、部、召、具、同、乘、臺、次に、公卿一行、六條前中納言、持、狩、衣、乘、物、にて、久世前宰相、右、同、藤谷前宰相、同